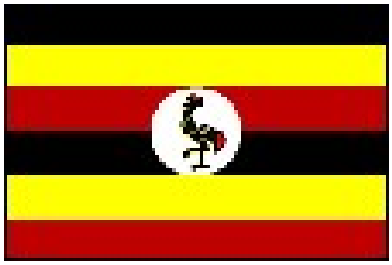
ウガンダ共和国

【国名】

●16 世紀頃からウガンダの中央部から西部にかけて存在した 4 つの王国（ブガンダ、ブニョロ、ンコレ、トロ）のうち、もっとも広い地域を支配したブガンダ王国に由来。

【国旗】

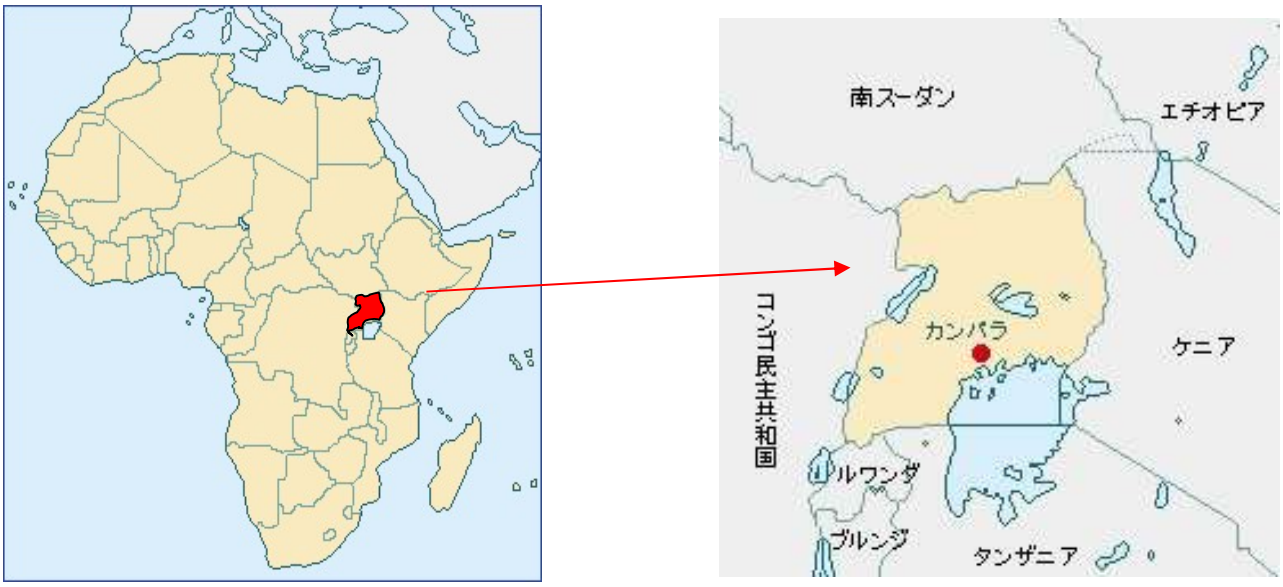


ウガンダ国旗

●国旗の黒はウガンダ人の肌の色、黄は赤道直下の豊富な太陽、赤は人民の同胞愛を示す。国旗中央の鳥は、ウガンダでよく見られるホオジロカンムリヅル。頭部の体毛に黒、黄、赤を含むホオジロカンムリヅルは、ウガンダを象徴しているとされる。右足を上げているのは、ウガンダという国が常に前に向かっている、発展していることを示している。

【国土】

- アフリカの東部、ほぼ赤道直下に位置する内陸国。面積は日本の本州とほぼ同じ（約24.1万㎢）。首都はカンパラ。
- 国土の平均海抜は約1,200mであり、大半は緑豊かな丘陵地帯。その美しさから、英国のチャーチル首相が植民地省政務次官としてウガンダを訪問した際、同国を「アフリカの真珠（the Pearl of Africa）」と呼んだ。
- 年間気温の全国平均は24度であり、赤道直下にもかかわらず快適な気候に恵まれている。



【ビクトリア湖】

●アフリカ大陸最大の内陸湖であるビクトリア湖（広さは世界第 3 位）を始めとする多数の湖水群がある（湖水群がウガンダの国土面積に占める割合は約 18%）。ビクトリア湖はウガンダ、ケニア、タンザニアの 3 カ国の国境をなし、大きさは九州の約 2 倍（約 69,000 ㎢）、周囲の長さは 3,440km にも及び、最深部の水深は 84m。

【ナイルの源流】

●ビクトリア湖を訪れた英国人探検家ジョン・ハニング・スピーク（1827－1864）が、同湖がナイル川の源流の一つである白ナイル川の起点であることを確認。

●なお、川の水が灰色に濁った白ナイルに比べて透明に見える青ナイルの源流はエチオピアにある。

【世界遺産】

●以下の 3 件が世界遺産に登録されている。

・「歴代ブガンダ王国国王の墓」
（火災後修復工事中）

・「ブウィンディ原生国立公園」
（マウンテン・ゴリラが生息）

・「ルウェンゾリ山地国立公園」
（山頂が氷河に覆われている）

【マウンテン・ゴリラの生息地】

●美しいウガンダの自然を保護するため、複数の自然公園や自然保護区が設けられている。これらのうち、クイーン・エリザベス国立公園（1954 年に英エリザベスⅡ世女王により開設）は鳥類の種類が豊富なうえ、チンパンジーの生息地があること等で知られている。

●ルワンダとコンゴ（民）との国境近くにあるブウィンディ国立公園内の山岳地帯には、絶滅の危機に瀕しているマウンテン・ゴリラが生息している。

【ウガンダの主食】

●日本でバナナと言えばおやつ感覚だが、ウガンダではバナナは大事な主食。特によく食べられるのは「マトケ」と呼ばれるバナナで、堅い緑色の時に収穫し、皮をむいて加熱して食す（生では食べられない）。バナナの葉で包んで蒸し、潰してマッシュポテトのようにして食べるのが一般的。味は甘くなく、ジャガイモのような食感。

●水と緑が豊かなウガンダは「東アフリカの食料籠（Food Basket）」と呼ばれ、ありとあらゆる主食・野菜が市場に並ぶ。

【ウガンダ産コーヒー】

- ウガンダでは、東部ケニア国境にある4,000m級の峰々がそびえるエルゴン山麓を中心に、コーヒーが栽培されている。
- ウガンダ産コーヒーの品質は高いものの、独自ブランドで市場に出回ることは少なく、主に欧州等でのブレンドに使われている。
- 日本では、「クリスタル」（本社：名古屋市）他がウガンダ産アラビカ種コーヒー豆を販売している。

【ウガンダのお酒】

- ウガンダ人はお酒を飲むことが大好き。バーやナイトクラブなど飲酒スポットが町の中に溢れており、報道によれば、ウガンダは一人当たり純アルコール消費量（12.2L）がアフリカのトップにランクされ

ている（世界的に上位が多いヨーロッパ諸国の平均消費量 9.2L の 1.3 倍相当）。

●ナイル川の豊かな水と穏やかな気候に恵まれたウガンダで醸造されるビールは 20 種ほどある。また、ウガンダ人は「ワラジ」というマトケ・バナナなどから製造される地酒も嗜む。ワラジは日本の焼酎や泡盛のような強いお酒で、小さなショット・グラスで楽しむ。

【HIV/AIDS に対する取組】

●ウガンダでは 1982 年に初めて HIV 感染者が確認されて以来、感染者数が急増し、1980 年代半ばには極めて深刻な状況に陥った。これを受け、ムセベニ大統領自ら対策に乗り出した結果、1990 年に 18.5%であった同国の HIV 感染率は、2021 年に 5.2%となり、大きな効果を上げた。

＜ウガンダで活躍する日本企業＞

【「ウガンダの父」と呼ばれた日本人】

● 「ウガンダの父」と呼ばれた故・柏田雄一氏（1931-2023）は、1965 年に衣料メーカー「ヤマト」の社員としてウガンダに赴任。現地で衣料（ワイシャツ）の工場作りに取り組んだほか、延べ 30 年以上のウガンダ在住経験を有し、日・ウガンダ交流に貢献。1995 年に外務大臣表彰を、2009 年春には旭日小綬章を受章した。山崎豊子作の小説「沈まぬ太陽」アフリカ篇にウガンダでシャツ工場を営む工場長の話が出てくるが、このモチーフが柏田氏。

【「ウガンダの父」を継承するオーガニックコットン】

●ウガンダ産のオーガニックコットンを用いたスマイリーアース社を設立した奥龍将氏は、上述の柏田氏に師事。大阪府泉佐野市を

拠点に活動。2018 年 9 月、第 1 回在外公館長表彰を受賞した。

【本格日本料理をウガンダへ】

●ウガンダで農薬や化学肥料に頼らないゴマの生産に従事していた宮下芙美子氏は、2015 年に COTS COTS Ltd を設立し、有機野菜の販売に従事。

●同社は、経済産業省「令和 5 年度 J-Partnership 製品・サービス開発等支援事業補助金」を活用して、ウガンダからの白身魚フィレ（ナイルパーチ、ティラピア）の輸出再興による日本への水産加工原料の供給力強化など、水産バリューチェンの構築にも取り組んでいる。

●2018 年、カンパラの中心地に、日本食レストラン「やま仙」を開業。京都で日本料理店を経営していた宮下氏の配偶者・山口愉史氏が料理長を務めている。山口料理長

は、令和４年度「日本食普及の親善大使」に任命された。

【ウガンダの日本建築】

●やま仙の入る商業施設「Tank Hill Park」は、茅葺屋根など、ウガンダと日本の伝統的建築様式を意識しながらも近代的要素を取り入れたデザインが特徴。

●建物をデザインしたのは、あしなが育英会の奨学金を得て大学に進学し、その後マケレレ大学建築学科でも学んだ経験を持つ小林一行建築士。

【ウガンダ産の手作りバッグ】

●仲本千津氏が代表を務めるリッチーエブリデイは、アフリカンプリントを使用したバッグを取り扱うブランドとして、2015 年に創業。

- ウガンダの工房では、シングルマザーや元子ども兵を「作り手」として雇用し、彼らが生活を向上させながら、自らが手掛けた製品を誇りをもって世界に送り出すことができる「場」を提供している。
- 最近では、仲本代表がオンラインで日本と繋ぎ、地元マーケットの棚から布を選ぶオンラインセミオーダー会などの企画を実施（神楽坂にショールームあり）。

【高品質カカオ・バニラをウガンダから】

- 岡野あさみ氏が代表を務め、夫妻でカカオとバニラ生産から加工、輸出までを手掛けるファーム・オブ・アフリカ（2016 年設立）。繁忙期の現地従業員は約 60 人に達する。
- 徹底した品質管理により、高品質な製品を輸出。輸出先は日本のみならず欧州の有名製菓ブランドなどにも及んでいる。

【「100 万人の手洗いプロジェクト」】

●サラヤ株式会社は、2010 年よりウガンダで「100 万人の手洗いプロジェクト」を開始。

●2015 年、現地工場がウガンダ初のアルコール手指消毒剤が生産できる工場として認定された。2020 年からのコロナ・パンデミック時には、24 時間体制で消毒剤生産・供給を行い、現地での知名度が非常に高い。

●最近では、大日本除虫菊株式会社（キンチョウ）との連携、新しい商品の開発などに取り組んでいる。

【アフリカの水問題をものづくりで解決】

●元 JICA 海外協力隊員（ウガンダ派遣）の坪井彩氏が 2020 年にウガンダ人 2 名の共同創業者と「Sunda Technologies Uganda Ltd」を設立。プリペイド式・従量課金型の自動井戸水料金回収システム「SUNDA」

の販売・設置により、ウガンダさらにはアフリカの水問題の解決に挑む。

●2024 年 7 月までに 300 台の SUNDA をウガンダ国内のハンドポンプに設置。最近では、公共水栓への SUNDA 設置も展開開始。

【ラストマイルデリバリー事業】

●CourieMate（クーリメイト）。親会社がヤマハ発動機株式会社であり、オートバイによるラストマイルデリバリーのビジネスを確立。宅配需要を拡大することで、現地の雇用を創出し、人々の暮らしが豊かになる環境づくりを推進。

【未電化地域に灯りを広げる】

●WASSHA は 2013 年にタンザニアで創業し、2020 年にウガンダにも進出。LED ランタンのレンタル（一夜貸し）事業が主力商品。既存の小規模売店（キオスク）をエージェ

ントとして事業展開。ウガンダでは約2,000エージェントを擁し、順調に黒字化。ほかにはモザンビーク、ナイジェリア、コンゴ民主共和国でも事業展開中。

【街の景色が一変したフライオーバー】

●2025年3月に清水建設・鴻池組が建設した立体交差道路（通称：カンパラフライオーバー（Lot1））が完成。街の新たなシンボルとなるカンパラフライオーバーは、市内の深刻な交通渋滞の緩和に寄与するのみならず、近代的な建造物として注目を集めている。

【本格的な交通信号が稼働開始】

●2024年7月に日本信号株式会社はウガンダ営業所を開設。主に日本のODA事業により、カンパラ市内に設置の交通信号機を納

入。2025 年に入って本格的に市内の信号機が機能し始めた。今後は ODA に限らず、さまざまなビジネスチャンスを模索中。